



お釈迦さまのお誕生をお祝いしましょう。
平成24年 花まつり
主催 新潟佛教会

期日：平成24年4月8日(日)
法要：善導寺 午後1時より
灌仏：旧・北光社前 午前10時より

お釈迦さまに甘茶をおかけしかんぷつ(灌仏と言います)、お祝いしましょう。

法要後、法要会場から灌仏会場まで稚児行列があります。

記念講演：講師 小島 不二 師
会場 ホテル イタリア軒
時間 午後3時より

入場無料！



地図は「新潟なじらネット」HPより

花まつり堂内

平成24年4月8日(日)

主催：新潟佛教会（旧新潟市内の寺院による仏教会）

昨年の法要 園児灌仏



時間：午後1時より
会場：善導寺 新潟市中央区西堀通り4

花まつり法要

会場寺院本堂で、市内各地から参集した寺院の住職が、宗派を超えた法要を勤める中、100人ほどの園児さんが灌仏をしてくれます。

古町会場での灌仏

時間：午前10時より
会場：古町通（旧・北光社前）

稚児行列（おねり）

法要終了後、午後2時頃より、古町通を旧・北光社前まで「おねり」



昨年の灌仏

昨年同様、今年も古町の旧・北光社前にて市民の皆様にご灌仏をさせていただきます。

おねり終了後は、この場所で園児による灌仏も行われます。



昨年のおねり

昨年は雨天のため、古町通のアーケード部分だけのおねりになりました。

今年こそは晴天になってくれることを願っています。

四月八日は、お釈迦さまの誕生日、花まつりです。

法要・灌仏・おねり・記念講演など多くの行事を予定しております

お花あげましょ

ささげましょ

今日は子どもの花祭り

ここに元気な

お釈迦さま

みんなでお祝い

いたしましょう♪

子どもたちの元気な声が法要会場や古町通にこだまします。是非とも、各会場に足をお運びくださいますよう、お待ちいたしております。

お釈迦さまはおよそ二五〇〇年前、インドの北部・ヒマラヤの麓（現在のネパール）で、カピラ城の城主「浄飯王（じょうぼんおう）」とその妃「摩耶夫人（まやぶにん）」との王子としてお生まれになりました。伝説では、摩耶夫人が胎内に白い象が入る夢をみて身ごもったといわれています。御誕生の場所はルンビニーという花園で、時は

まさに美しい花が咲き香っている季節でした。

王子が誕生すると天より甘露（かんろ）の雨がふりそそぎ、王子の体を清めました。すると王子はすぐに立ち上がり、七歩あゆまれ『天上天下唯我独尊（てんじょうてんげゆいがどくそん）』といわれたそうです。甘露の雨は神々の祝福であり、七歩あゆんだことは六道、すなわち地獄・餓鬼・畜生・修羅・人・天という輪廻（りんね）の世界を超えたことを意味します。また、『天上天下唯我独尊』とは、人間の尊厳をいいあらわしたものです。



◆ ◆
◆ ◆
◆ ◆

◆ ◆
◆ ◆
◆ ◆

花祭り記念講演

花祭り行事の終了後、記念の講演会を開催します。

式典会場や灌仏会場からも近いところで、是非引き続きご参加ください。

日時：平成24年4月8日（日）

午後3時から4時頃まで

会場：ホテル イタリア軒

新潟市中央区西堀通7番町1574

電話 025(224) 5111

講師：小島 不二師

真言宗智山派 宝亀院住職

前新潟佛教会長

演題：「人生どっこいしょ」

迷惑をかけます



昨年（平成23年）の記念講演

第8回 市民のための仏教講座

特別講師

玄侑 宗久師

げんゆう

そうきゅう



日時

平成24年10月9日（火）

午後6時開演（予定）

会場

新潟県民会館大ホール

新潟佛教会では隔年で、「市民のための仏教講座」を開催しています。

これまで特別講師として、平成十四年度は永六輔氏、平成十六年度は五木寛之氏、平成十八年度は新井満氏、平成二十年度は立松和平氏、そして前回、平成二十二年度はひろさちや氏をお招きしました。

今年度は、東日本大震災の犠牲者・被災者のことを、末永く語り続けていこうという新潟佛教会の方針の一環として、「東日本大震災復興構想会議」の委員でもおられる、玄侑宗久師を特別講師にお招きしました。

玄侑宗久師プロフィール

一九五六年 福島県三春町生まれ

慶応義塾大学中国文学科卒

二〇〇一年 『中陰の花』で

第一二五回芥川賞を受賞

二〇〇七年 『般若心経 いのちの対話』で

第六十八回文藝春秋読者賞を受賞

現在の主な役職

臨済宗妙心寺派 福聚寺第三十五世住職

妙心寺派現代宗学委員

京都・花園大学文学部客員教授（国際禅学科）

新潟薬科大学客員教授（応用生命科学部）

東日本大震災復興構想会議委員

編集後記

「ただ見ればなんの苦もなき水鳥の、足に暇なき我が思いかな」この和歌は、水戸黄門で知られる水戸光圀公の歌である。水に浮かぶ鳥は、スイスイとなんの苦労もなく優雅に泳いでるように見えるが、しかし水の中では忙しく足を動かして苦勞しているのである。他人がしている苦勞は普段見えないうが、いざ自分がその立場になると、その苦勞が初めて身にしみてわかるものである。

新潟佛教会では、各宗派が二年毎に会長を選出し事務を担当する事になっている。そんな訳で私も昨年からは、断りきれず事務担当員として駆り出されたのである。

これまでの私は、傍観者のように配られてくるものをただ眺めているだけであったが、自分がその立場になると、いかに多くの人の苦勞の上に物事が成されているかを、改めて知らされるのである。

水鳥のように何ひとつとして苦勞がないものはないと、傍観者より一歩足を踏み入れた今の心境である。

(中)